

今更ですが、新渡戸稲造氏の「武士道」のご紹介です。以前に購入した文庫本とちがい、この要約版は簡潔にポイントを解説してくれているのが気に入りました。大変に長くなってしまいましたので、興味のない方は飛ばして下さい。文中の◆印の解説が「新渡戸稲造博士と武士道に学ぶ会」によるものです。

## 私が日本精神の華「武士道」

### を書いた理由 新渡戸稲造

約十年前、著名なベルギーの法学者、故ラヴレー氏の家で歓待を受けて数日を過ごしたことがある。ある日の散策中、私たちの会話が宗教の話題に及んだ。

「あなたがたの学校では宗教教育というものがない、とおっしゃるのですか」とこの高名な学者がたずねられた。私が、「ありません」という返事をする、氏は驚きのあまり突然歩みをとめられた。そして容易に忘れがたい声で、「宗教がないとは。いったいあなたがたはどのようにして子孫に道徳教育を授けるのですか」と繰り返された。

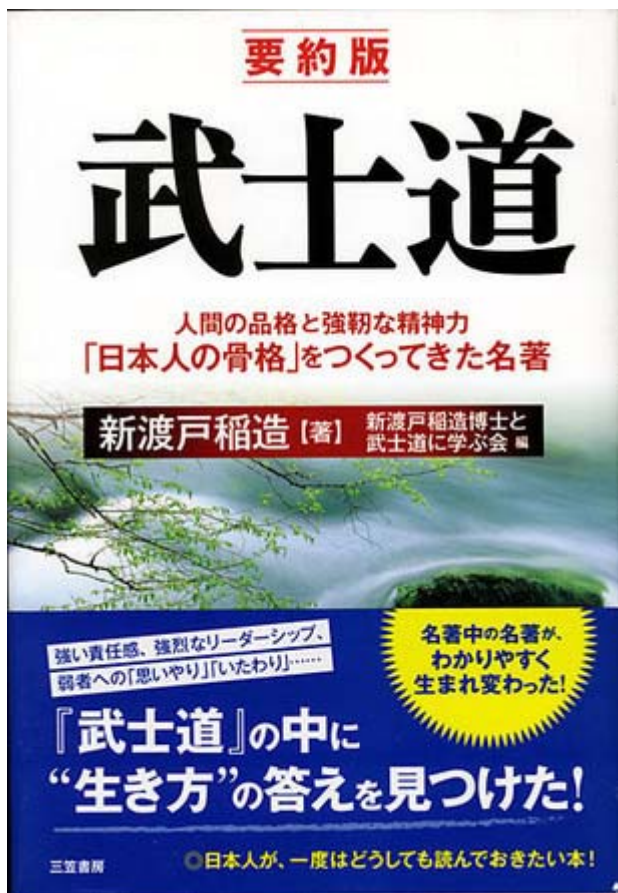
その時、私はその質問に愕然とした。そして即答できなかった。なぜなら私が幼いころ学んだ人の倫たる教訓は、学校で受けたものではなかったからだ。そこで私に善悪の観念をつくりださせたさまざまな要素を分析してみると、そのような観念を吹きこんだものは武士道であったことによく思いあたった。

この小著の直接の発端は、私の妻がどうしてこれこれの考え方や習慣が日本でいきわたっているのか、という質問をひんぱんに浴びせたからである。

ラヴレー氏と妻に満足のいく答えをしようと考えているうちに、私は封建制と武士道がわからなくては、現代の日本の道徳の観念は封をしたままの書物物同然であることがわかった。

そこで私の長い病のためにやむを得ずできた機会を利用して、家庭内でかわしていた会話の中で得られた回答のいくつかを、読者に整理して述べてみることにする。それらは主として封建制度がまだ勢力をもっていた私の青年時代に、人から教わり、命じられてきたことである。

一八九九年十二月(第一版への序文より)



要約版「武士道」は三笠書房から1200円で好評発売中です。

## 一 武士道とは何か

人の道を照らしつづける武士道の光  
勇気をもって生き抜いた「戦いのエリート」

武士道とは

- ◆日本の土壌に固有の華である。
- ◆戦闘におけるフェアプレイ精神である。
- ◆道徳的徳目の作法であり、また日常生活における規範でもある。
- ◆武士道の源には、仏教の教え(運命に対する信頼と服従)、神道の教え(愛国心と忠誠心、孝心)、孔子・孟子の教え(礼、思いやり)がある。

## 二 「義」一揺らぐことのない武士の「背骨」

何よりも道理を重んじるサムライの「義」  
誤解された「義理」の本当の意味

「義」とは

- ◆道理に任せて決断する心である。
- ◆もともと厳しい規範であり、「勇」と並ぶ武士道の双生児である。
- ◆人間が進むべき真っ直ぐで狭い道である。
- ◆「義」から派生したはずの「義理」は、「世論が期待する漠然とした義務感」に成りさがった。本来は、尊い「正義の道理」である。

## 三 「勇」一ものに動じない心の磨き方

無鉄砲な「犬死」こそ恥  
平静さに裏打ちされた勇気

「勇」とは

- ◆ただ危険を冒すのではなく、正しいことをすることである。
- ◆勇猛、忍耐、勇敢、剛胆、勇気などの徳を指す。
- ◆試練に耐える胆力である。武士は幼少期から厳しい訓練を受けた。
- ◆精神的な意味においては、常に動じない「心の平静」を意味する。

#### 四 「仁」―「武士の情け」の美しさ

人の上に立つための徳

**サムライ独特の「慈悲の心」**

「仁」とは

- ◆愛、寛容、他者への同情であり、やさしい母のような徳である。
- ◆苦しんでいる人のことを心に留める心であり、人の上に立つ者に必要な心である。
- ◆か弱い者、劣った者、敗れた者への仁は特に重要である。
- ◆武士にも詩歌や書物、音楽をたしなむ感性が求められた。

#### 五 「礼」―人とともに喜び、人とともに泣く

礼とは他人に対する思いやりの表現

**優雅な作法が生む「余力」**

「礼」とは

- ◆他人に対する思いやりを目に見える形で表現することである。
- ◆他人の喜怒哀楽に共感し、優美な感受性として表われるものである。
- ◆「礼」を守るための「礼儀作法」は、一番無駄がない最善の方法である。
- ◆正しい作法にもとづいた日々の鍛錬によって、身体の機能にも秩序ができ、環境とも調和して精神が統御される。

#### 六 「誠」―なぜ「武士二言はない」のか？

武士の口から出な言葉の重み

**武士道と商人道の違い**

「誠」とは

- ◆嘘をつかず、ごまかさないことである。
- ◆「礼」の裏付けに必要であり、また「名誉」と分かちがたく混合していた。
- ◆「武士の一言」という表現が示すように、武士は言葉に重きをおいたため、約束は証文無しで決められ、実行された。
- ◆社会的身分が高いほど、より高い「誠」の水準が求められた。

#### 七 「名誉」―苦痛と試練に耐えるために

武士道はなぜ忍耐強さの極致に達したのか

**「錦を飾る」の本当の意味**

「名誉」とは

- ◆個人の尊厳であり、また家族意識とも結びついていた。
- ◆「最高の善」であり、名誉のためなら貧困や試練にも耐え、生命すら安いものだと考えられた。
- ◆若者が追求するのは富や知識ではなく、名誉であるべきである。
- ◆行きすぎた短気は軽蔑され、忍耐強さが必要とされた。

#### 八 「忠義」―一人は何のために死ぬるか

日本人の忠義とはいったい何か

**「尊い犠牲」が支えた主従関係**

「忠義」とは

- ◆主君に対する忠誠心である。
- ◆武士道では個人よりも国がまず存在すると考えた。したがって主君への忠義は、家族への義理人情よりも優先されるべきものだった。
- ◆主君に媚びへつらって機嫌をとる者は軽蔑された。主君と意見がわかれるときは、堂々と反論するのが家臣のとるべき忠節の道とされた。

#### 九 武士は何学び、どう己を磨いたか

行動するサムライが追求した「品性」

**武士道は損得勘定をとらない**

### 武士の自己鍛錬

- ◆知恵、慈悲、勇気が武士道を支える轍一どして鍛えられた。
- ◆知性をひけらかさず、内面の品性を第一とした。
- ◆剣術などの武術と、文学や儒学などの知的訓練を両立させていた。
- ◆損得勘定を嫌い、金銭的見返りを求めない無報酬の道に生きた。

## 十 「克己」—弱い心に打ち勝つ

### サムライは感情を顔に出さない

#### 心を安らかに保つために

#### 「克己」とは

- ◆自分の弱い心に打ち勝つことである。
- ◆心の安らかさを保つことを理想とする。
- ◆武士は感情や家庭の事情をいわずらに人前で出さない配慮をもつ。
- ◆日本人の笑顔は心のバランスを保つ役割がある。

## 十一 「切腹」と「仇討ち」—生きる勇気、死ぬ勇気

### 腹切りの"ハラ"は何を意味するか

#### 「四十七士」の仇討ちにみる正義の感覚

#### 「切腹」とは

- ◆単なる自殺の手段ではなく、法制度であり、同時に儀式だった。
- ◆みずからの罪を償い、過去を謝罪し、不名誉を逃れ、朋友を救い、みずからの誠実さを証明する方法だった。
- ◆いわずらに死に急ぐのは卑怯とされ、ときには逆境に立ち向かうことが求められた。

#### 「仇討ち」とは

- ◆道徳を破った者に対し、裁きをくわえる「法廷」と呼べる制度だった。
- ◆単なる復讐ではなく、目上の人や、恩義ある人のためになされるときにのみ正当とされた。

## 十二 「刀」—なぜ武士の魂なのか

### 刀は忠誠と名誉の象徴

#### 武士の「究極の理想」とは

#### 「刀」とは

- ◆力と武勇の象徴であり、同時に忠誠と名誉の象徴であった。
- ◆刀は芸術品でもあり、さらに力、美、畏怖、恐怖が内在している。刀匠は単なる鍛冶屋ではなく、神の思し召しを受ける工芸家であった。
- ◆武士の理想は、刀を抜くことなく勝利することであった。

## 十三 武士道が求めた女性の理想像

### 自分を護り、家庭を護る

#### 妻女の務めとは何か

#### 武士道が求めた理想の女性像とは—

- ◆自分の身を護れる女傑であり、同時におしとやかな女性である。
- ◆女性は戦場には出なくても、家のやりくりや子供を教育し、家庭においては絶対的な存在であった。
- ◆「自己犠牲」の精神が求められたが、それは女性だけが犠牲になったのではなく、武士道全体の根源にある精神だった。

## 十四 「大和魂」—いかにして日本人の心となったか

### 日本の知性と道徳の源

#### 「エリート」の栄光、憧れ、そして「大和魂」へ

#### 「大和魂」とは

- ◆武士道そのものであり、それに憧れた国民全体の精神である。
- ◆武士は民族全体の「美しき理想」であり、かつ根源であった。武士道は武士階級だけでなく、通俗的な教訓をあわせもつ気高い規律である。

◆サクラの美しさ、はかなさは、日本人の国民性を象徴している。

## 十五 武士道から何を学ぶか

日本人は自ら変革できる力をもつ  
名誉、勇気、そして武徳のすぐれた遺産

武士道から学ぶこと

- ◆国民全体の折り目正しさ、忍耐、勇気、などの特徴には武士道の教えが作用している。
- ◆武士道は世界のどの国よりも深い愛国心を生んだ。
- ◆武士道は形のうえでは滅んでも、人生を豊かにする思想として残り続ける。
- ◆武士道の厳しさ、損得勘定を求めない哲学は、個人主義・民主主義の世の中においても忘れてはならない。

カテゴリ: [コラム](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(2\)](#)

タグ: [新渡戸稲造](#) [武士道](#) [武士道に学ぶ会](#)

### コメント(2)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)



Commented by [yashikiさん](#)

2009/01/25 22:17

初めてコメントさせていただきます。

私も最近、武士道を読んでおります。 訳が岬龍一朗さんです。

でも、内容的にはほとんど一緒だと思っていますが。

半分超えたぐらいなのですが、内容が難しいというより忘れていた(?)感覚が蘇ってきたのか、私の中の日本人感が目覚めつつあります。もともと、難儀にこだわり、いやな仕事も自分が引き受ける気持ちを持っていましたが、武士道を読み、関連の文献などを拾い読みするうちに江戸～明治にかけての日本人の道徳観にほれ込んでいます。

大げさではありますが、こういった名著は義務教育で教えるべきです。せめて高校の文学か近代歴史でも触れてもらえれば・・・



Commented by [花うさぎさん](#)

2009/01/26 07:41

To [yashikiさん](#) おはようございます。

>私も最近、武士道を読んでおります。 訳が岬龍一朗さんです。

原著が同じですから基本は変わりません。上記の本も奈良本達也訳「武士道」の要約版です(^ ^)。

>武士道を読み、関連の文献などを拾い読みするうちに江戸～明治にかけての日本人の道徳観にほれ込んでいます。

この武士道や教育勅語などはGHQが「日本人の強さの秘密だ」として徹底的に排除したくらいですから。

>こういった名著は義務教育で教えるべきです。せめて高校の文学か近代歴史でも触れてもらえれば・・・

大賛成です。世界が認めている名著をもったいないですよ。